

シリーズ 防災・思いの丈

今回は「**災害が発生するまでに**」について考えてみましょう。災害が発生するまでにやるべきこととは、どんなことがあるのでしょうか？災害が発生するまでにやることは「**災害が発生した時からやると遅いもの**」のことで、「**災害が発生した時にやるべきこと**」を考えると「**災害が発生するまでにやっておくと良いこと**」を見つけ出すことができます。まずは、私たちに降りかかる災害を想定しながら「**災害が発生した時にやるべきこと**」を考えてみましょう。

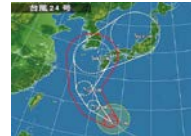
「災害」と云っても様々な災害があります。まずは自分に襲いかかる災害を生み出す**災害因**（災害の原因）を特定しなければなりません。その為に自分の住む地域に襲って来る災害因を知る必要があります。その災害因にどのように対峙し、どのように行動するかを決めることが「**備え**」となり、想定する災害因により「**構える速度**」も違います。それぞれの災害因について「**やるべきこと**」考えましょう。

【**地震発生**】やるべきことは「**命を守る行動を短時間でとる**」ことです。自分のおかれている場面によって大きく違ってきます。その場で出来る最善策を取る必要があります。それは、その場で「**頭を守るのか**」、守れそうに無い場合は「**その場から移動するのか**」、高層階なら「**何かにしがみつくなのか**」、究極の選択では「**ケガをしても命を守るのか**」と色々な場面での判断が迫られます。でも、あなたが緊急地震速報を入手できるかどうかで、自分の命を守るための行動をとる時間が数秒伸びることを覚えておきましょう。

【**津波発生**】やるべきことは「**命を守るための避難をする判断**」です。この判断は、あなたが居る場所によって判断する時間が違ってきます。南海トラフ地震では、和歌山県や高知県では短時間での判断が必要となります。なぜなら南海トラフ地震発生から高知県室戸市では地震発生から3分で24mの津波、和歌山県串本町では地震発生からなんと2分で18mの津波が到達。この状況を考えれば「**大きな地震を感じたら即避難する**」この判断しか無いのです。自治体からの避難勧告・避難指示を待つ余裕はありません。でも加古川市で考えると、南海トラフ地震発生から津波到達まで約2時間（3m）の余裕があります。加古川市では「**大きな地震を感じたら命を守る行動をとった後、情報収集すること**」です。地震は何処で発生したのか？津波は発生しているのか？等を判断する時間が存在します。

【**台風発生**】台風による災害は「**暴風・豪雨・洪水・土砂崩れ**」等々、形を変えて襲ってきます。台風は、現在の日本の気象情報力から考えるとかなり事前に知

ることができます。あなたに危険が迫る可能性があるのであれば、事前に行動する時間の余裕もあます。ところがこの余裕に落とし穴があります。それは過去の被害から鑑みてみると「**風が吹き出してから飛散防止する**」「**豪雨になってから屋根に登る**」「**河川が溢れだしてから避難する**」「**落石しだしてから避難する**」等々、災害による被害が発生しだしてから命を守る行動をとる人が多いのに驚かされます。豪雨で膝ぐらいつままで水が流れているにもかかわらず「**水の中を歩こうとする**」こんな無謀な命を捨てる行動をしてしまう人が多くいるのも現実です。大切なことは「**命を掛けて避難行動をする。命を掛けて対策をする**」。やるべきことは「**命を掛けずに行動すること**」を事前に考えるべきです。



【**火災発生**】やるべきことは、「**身の安全を確保しながら消火活動**」です。消火をしなければ火は瞬く間に大きくなっていきます。記憶に新しいのは新潟県糸魚川市の大規模火災です。中華料理店でコンロの火の消し忘れが町全体を燃やし尽くしました。鍋ひとつの小さな火の状態でも消火は容易ですが、壁に燃え移り、天井に火がつけば、一般市民の力で消火することが難しくなり、消防隊の力が絶対的に必要となります。その消防隊の力を持ってしても、一軒の家が燃えると何台もの消防車と20トン以上の消火用水が必要です。それが町全体ともなると大変な作業となります。「**火は小さいうちに消す**」これが本当に大切なことです。

【**交通事故発生**】交通事故も人的な災害のひとつ。自分はルールやマナーに気を付けていても相手があることで、防ぎきれないことがあります。逆に自分がルールやマナーを守らないことで事故になる。これは自分が気を付けていれば防げることです。警察資料によると、**歩行中に交通事故で亡くなった高齢者の6割以上は「本人のルール違反」と**云われています。また若者による暴走行為では、特に原付バイクの違反行為「**2人乗り**」で後者の死亡率が高いにも関わらず2人乗りを繰り返す。親も見て見ぬふり、**事故の後に泣きわめいても、もう遅い**のです。「**カッコ悪い行為**」で他者を巻き込み大事故に繋がることが、全く理解されていないのです。まずは、自分がルールやマナーを守る。この意識から始めることが大切です。



まずは自分に降り掛かる「**災害（災害因）**」を身近な方と話し合い「**学ぶ**」必要があります。学ぶと云っても難しい書物を読む必要も講義を受ける必要もありません。身近な人と「**想定の話をする**」。これが大切な構えであり大きな備えなのです。今回は「**覚悟を決めろ**」